

2020年度 学校関係者評価委員会 報告書

12月初旬に保護者へのアンケート、2月末に教職員の自己評価を基に、学校関係者評価委員会を開き、話し合いの場を持ちましたことを、ご報告させていただきます。

《学校関係者評価委員会での声》

- ・ コロナ禍の中、子どもの園生活や園行事を運営してもらい有難く感じる。
- ・ 園での経験が子どもの成長に現れていると感じている保護者が多くいる。
- ・ 園児同士、園児と教職員、教職員と保護者、それぞれコミュニケーションを取り、信頼関係を築いていくことを幼稚園側は今以上に努めていく。
- ・ コロナ禍であることも影響を与えていると思うが、幼稚園の教育方針や教職員が子どもと関わる中で大切にしていることを伝える場が少ない為、在園の保護者をはじめ、これから園探しをする方にもあまり伝わっていない。
- ・ 子育て支援事業では、現代は“親子の関わり”ではなく“親同士が知り合う場”を求めている人が多い。
- ・ 今後も“小野田小百合幼稚園らしさ”を大切に、子どもを教育してほしい。

～更によりより幼稚園づくりをしていくための今後の課題～

●園児同士、園児と教職員、教職員と保護者、それぞれのコミュニケーションの向上

- ・ コロナ禍となり、2020年度は、行事を中止したり、保護者行事の参加人数を制限したりと、例年以上に教職員と保護者がコミュニケーションを取る場が減っている。
- ・ 例年4月末に参観日を実施し、担任や保護者同士の顔合わせを行っていたが、コロナ禍の為、2021年度も実施が困難であることを受け、全園児保護者対象の個人懇談会を4月の始業式から実施する。早い段階で、家庭での子どもの様子や性格等を知ること、スムーズに園生活を送ることができるようにする。
- ・ 現在、1学期末と2学期末に希望者対象の個人懇談会を実施しているが、園と保護者が、よりコミュニケーションを取れる場を増やす為、4月同様、全員対象で実施していくのはどうか、という意見が出た。
- ・ 園で、子ども同士のトラブルが起こった際、教職員は両者から事情を聞き解決へと導いたはずだったが、家庭で子どもが保護者に話す内容が異なっていたことがあり、保護者を混乱させてしまった。園児と教職員の信頼関係を築くことができなければ回避できた。

●子育て支援事業の内容や取り組み方を検討

- ・ 現代は“親子の関わり”ではなく“親同士が知り合う場”を求めている人が多いように感じる為、未就園児親子対象の“にこにこ広場”の取り組み方を工夫していく。
- ・ 当園の未就園児クラス“エンジェル組”の保育日数を増やす。

～今後の検討事項～

- ・ 学期末毎に、全園児保護者対象の個人懇談会の実施

子どもたちが安心して生活できる場を築いていくことができるよう、今後、今以上に園と保護者が、コミュニケーションを深め、信頼関係を築いていくことができるよう努めていきたいと思っております。